

既存IT資産を活用し全体最適化を実現する “ SOAプラットフォーム ESB ”

萱野重実*
藤田英司*
伊藤正裕*

“ SOA Platform ESB ” for Realizing Total Optimization with Existing IT Resources

Shigemi Kayano, Eiji Fujita, Masahiro Ito

要 旨

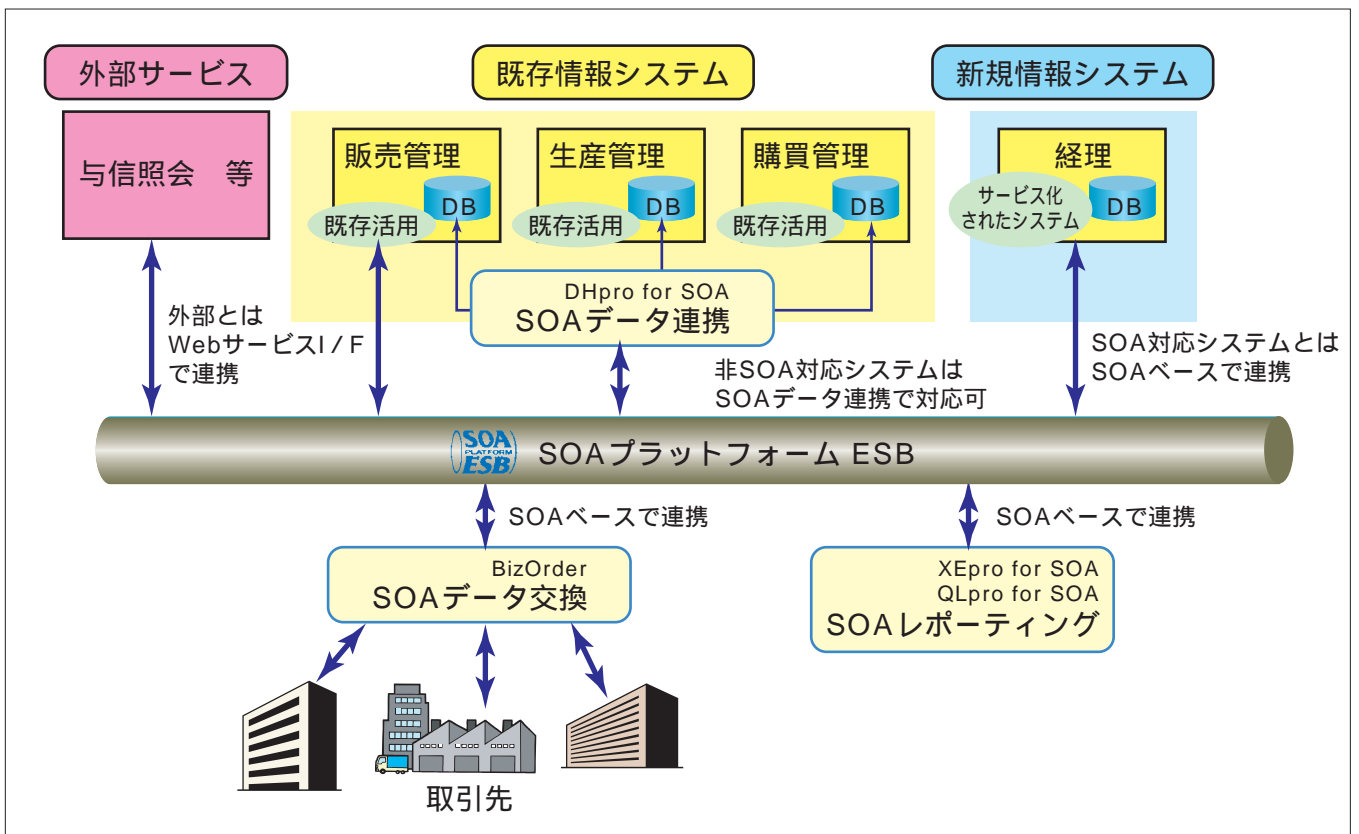
今日の情報システムの課題として、急激な事業環境の変化への柔軟な対応が挙げられる。限られた費用と時間の中では、既存システムを活用しながら、新しい事業環境に適応・進化させつつ、システム全体の最適化を図らなければならない。そこで近年、注目されているシステム構築技術がSOA(Service Oriented Architecture)である。

三菱電機インフォメーションテクノロジー(株)(MDIT)は、データを中心とした情報システムの全体最適化のためのコンセプト“ データセントリックソリューション DS ”を推進している。“ データセントリックソリューション DS ”にSOA技術を融合させることで、事業環境の変化により迅速かつ柔軟に対応可能になる。そのために製品化したのが“ SOAプラットフォーム ESB(Enterprise Service Bus)”である。

SOAプラットフォーム ESBは、サービス(業務の機能単

位)をメッセージ交換で疎結合させるESB機能によって容易にSOAを実現させる製品である。既存アプリケーションは、豊富に用意したアダプタを介してサービス化して、ESBに接続する。ESBの上ではサービスは簡単に差し替え、追加、他システムとの連携などができ、変化に柔軟なシステム構築が可能になる。また、SOAプラットフォーム ESBでは、サービスの連携フローをビジュアルに定義可能で、内部統制で必要とされる“業務プロセスの可視化”を実現する。さらに、連携データを監視することが可能で、業務プロセスの監査証跡も簡単に作成できる。

MDITは、“データセントリックソリューション DS”の各種ソリューション群のSOA化を進めており、これらをSOAのサービスとして利用することによって、データ連携・統合、既存システムの活用もより容易となる。



SOAプラットフォーム ESB

“ SOAプラットフォーム ESB ”は、SOAの構築手法を用いて、アプリケーション統合を実現するミドルウェアである。SOAによってシステム連携の柔軟性・リアルタイムな連携・既存IT資産の有効活用・ビジネスフローの可視化による内部統制を実現する。